

[講演]

NII-SOCS の運用から浮上してきたセキュリティ対策の課題 ～高度化するサイバー攻撃にどう向き合うか～

講演者



高倉 弘喜 (Takakura Hiroki)

国立情報学研究所

サイバーセキュリティ研究開発センターセンター長

[略歴]

- ・ 1990 年 3 月 九州大学工学部卒
- ・ 1992 年 3 月 九州大学大学院工学研究科修士課程修了
- ・ 1995 年 3 月 京都大学大学院工学研究科博士後期課程修了
京都大学研究員(イリノイ州立大学訪問研究員)、奈良先端科学技術大学院大学助手、京都大学講師・助教授・准教授、名古屋大学教授を経て
- ・ 2016 年 4 月 国立情報学研究所教授
- ・ 2017 年 4 月 国立情報学研究所サイバーセキュリティ研究開発センター長

[研究分野、研究テーマ]

研究分野：サイバーセキュリティ

- ・ 可用性と安全性の両立を図るサイバー攻撃対策
- ・ 未知のサイバー攻撃検知技術

[所属学会]

- ・ 情報処理学会、電子情報通信学会、システム制御情報学会、地理情報システム学会、ACM

アブストラクト (講演概要・要旨)

サイバー攻撃の手口は急速に高度化し、もはや攻撃の完全防御ではなく被害発生を想定した対策が求められるようになってきた。このような背景を受け、NII では NII Security Operation Collaboration Services (NII-SOCS) の運用を開始した。NII-SOCS では、日々60 万件の警報と6 億件のセッション情報を分析し、リスク度の高いものについて参加機関へ情報を提供している。本講演では、NII-SOCS の運用から見えてきた知見として、高等教育機関におけるサイバーセキュリティマネジメント層を含めた人材育成や組織体制の構築の現状と課題について解説する。

キーワード

インシデント対応、セキュリティマネジメント層育成、NII-SOCS